

こんな時どうする!? 日当直も慌てない対応のあれこれ

血液ガス検査

高橋 政江

新潟県立妙高病院

みなさんは血液ガス測定の際、検体の取り扱いについて意識していますか? 実は、思った以上に検体の攪拌や採血から測定までの時間や温度などは、とても重要なポイントです。血液ガスに限らず、正しく適切に処理した検体でないと正しい結果は得られません。そして、間違った結果は、診断・治療に大きな影響を及ぼします。特に、救急領域における血液ガス分析は、一番最初に行われることが多い検査です。なぜなら、血液ガスは、バイタルサインの一つに位置づけられるほど重要な検査だからです。すなわち、血液ガスの異常はバイタルサインの異常と捉えられるため、速やかな検査や処置を含めた対応が求められます。ですのでデータが読めれば、ある程度患者の状態が推測でき、どの検査を優先して行うべきか、予測することができます。しかし、血液ガスは多くの項目と数値で、何をどう見ればいいか不安を抱くことも多いと思います。ここだけは押さえてほしいポイントについて解説いたします。

心電図検査

大矢 佳奈

JA新潟厚生連 長岡中央総合病院

心電図検査は虚血性心疾患や不整脈の診断に簡便で有効な検査法です。そのため、いつでもどこでも検査を実施することができ、日常業務で生理検査に携わってなくても、日当直時に心電図の依頼があれば対応しなければなりません。そんな時、電極装着は間違いのないか不安になったり、きれいな波形がとれず苦慮したり、心電図の結果について医師に聞かれて返答に困ったり、パニック値所見かどうか判断に迷ったり、急変したらどうしようと不安に感じたりしたことはありませんか?

このワークショップでは、心電図をとる際に気を付けたいこと、パニック値所見について判読のコツや報告手順、患者急変時対応などについて実際の波形を呈示しながらお話させていただきます。少しでも皆さんの不安解消につながれば幸いです。



輸血検査

木村 俊平

公立置賜総合病院

日当直者に「不安な検査は何か」と尋ねると、「輸血」と答える臨床検査技師は少なくありません。これは、輸血検査が患者の生命に直結する業務であり、万が一のミスが重大な事故につながるという強いプレッシャーを伴うためではないでしょうか？しかし、正しい手順を踏み、落ち着いて検査を行えば、過度に不安を感じる必要はありません。輸血検査は怖いというイメージが先行しがちですが、決して特別なことが求められている訳ではありません。特に日当直帯においては、人手や経験の差に左右されことなく、誰でも一定の品質を保てる体制の整備が求められます。全自動輸血検査装置の導入は最も効果的な対策のひとつですが、それに加えて、マニュアルの整備や定期的なトレーニングの実施により、日当直者が迷うことなく、安心して対応できる体制をあらかじめ構築しておくことが重要です。日当直帯における輸血検査の不安を減らし、安全かつ確実に輸血療法が行える環境づくりの一助となれば幸いです。